

平成 25(2013)年度

NGO 海外スタディ・プログラム最終報告書

提出日	2014年1月10日
氏名	熊澤幸子
所属団体	NPO 法人メドゥサン・デュ・モンド ジャパン
受入機関名 (所在国)	Medecins du Monde (フランス)
研修期間	2013年8月29日～2013年12月4日

研修テーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国外での中長期医療保健事業の運営ノウハウの取得と日本的運営スタイルの確立 2. メンタルヘルス事業の効果的コーディネート
全体研修目標	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. 連携するパートナー組織、各部署の機能を正確に把握し、個人レベルでの意思疎通はもとより、ラオスプロジェクト推進に必要な組織としてのコミュニケーションの在り方を学ぶ。異なる地域担当部門に師事し、より明確に介入対象や地域に適したアプローチを追求できる。 1-2. 医療専門家を中心とする現場チームと質のよい共同を行うことができる。管理部門（会計など）と事業部門（小児医療）それぞれにおいて、現場と日本でお互いに必要な情報が共有され、かつお互いの効率的な働き方を追求する。 2-1. メンタルヘルスプロジェクト立ち上げと運営について熟知する：立ち上げまでのリサーチ、ボランティア専門家への働きかけ、関係機関との連携、介入アプローチ、介入効果分析、資金の効果的投入など。 2-2. ソーシャルワークをベースに、メンタルヘルスの具体的ケース介入とプロジェクト運営の理論を深めることで、実践に適宜修正を加えていく。

具体的な研修内容

- ・ 外部研修 (Mental Health in Complex Emergency) 修了
- ・ MDM トルコ緊急支援チーム (シリア支援) 訪問
- ・ 受入機関 (MDM フランス) が主催する各種会議、ワークショップへの参加
- ・ MDM ベルギーチャリティイベント参加 (パリ市内)
- ・ ベルリン人道支援カンファレンス参加
- ・ タンザニア HIV ハームリダクションプログラム訪問と事前リサーチ
- ・ マルセイユ・パリ市内の MDM クリニック訪問
- ・ パリ市内における中国人セックスワーカーに対するハームリダクションプログラム参加
- ・ ヨーロッパ国内プロジェクト担当者会議参加 (ブリュッセル)
- ・ パリ本部での各部署とのディスカッション、日常業務のなかでの実践トレーニング
- ・ 派遣専門家に対する派遣前内部研修への参加

研修の成果

(目標に対し達成できなかった内容がある場合は、その理由とあわせて報告してください)

- 1-1. (目標) 連携するパートナー組織、各部署の機能を正確に把握し、個人レベルでの意思疎通はもとより、ラオスプロジェクト推進に必要な組織としてのコミュニケーションの在り方を学ぶ。異なる地域担当部門に師事し、より明確に介入対象や地域に適したアプローチを追求できる。

(成果) プロジェクトを現場の責任者と共に管理運営するタスクを追う「デスク」と呼ばれるスタッフや、「デスク」や現場を後方支援する様々な部署の担当者に師事し、プロジェクト推進に必要な様々な業務を学ぶことができた。

また、会議やトレーニング目的でフィールド国から帰国(一時帰国)するスタッフも多く、積極的に会合する機会を持つことでそれぞれのプロジェクトの機能や工夫などをより濃密に理解することができた。

地域、人員などのリソースや環境の違いは当然ながら異なる介入アプローチを産み出しており、多くの事例を学ぶことが、ラオスにおける日本チームの活動において、地域のみならずチームや状況により適したアプローチ方法を模索するための豊かなベースとなった。

- 1-2. (目標) 医療専門家を中心とする現場チームと質のよい共同を行うことができる。管理部門(会計など)と事業部門(小児医療)それぞれにおいて、現場と日本でお互いに必要な情報が共有され、かつお互いの効率的な働き方を追求する。

(成果) 医療保健プロジェクトにおける「デスク」の役割は、現場の事業遂行能力を最大限に引き出すことにある。現場チームが医療専門家として本領を発揮するためには、それ以前に情報収集能力、チームビルディングの努力、活動戦略の見直しなどがある程度出来るようになることが前提である。フランス国内外のプロジェクト担当者(「デスク」)に師事し、交流する中で、それぞれの国における医療専門家(派遣専門家、現地雇用専門家)との協働や連携のあり方や工夫を学ぶことができた。

- 2-1. (目標) メンタルヘルスプロジェクト立ち上げと運営について熟知する: 立ち上げまでのリサーチ、ボランティア専門家への働きかけ、関係機関との連携、介入アプローチ、介入効果分析、資金の効果的投入など

(成果) 外部研修と緊急支援の現場訪問を通じて、メンタルヘルスプロジェクト立ち上げの際に必要なプロセスとアクションを考察でき、またプロジェクトの主体(組織や国)、介入する対象(国やターゲットとなる人々)、環境によってプロジェクトの立ち上げや運営は多様になり得ることを理解できた。

外部研修では、数々の災害・紛争現場でメンタルヘルスを導入してきた先輩の講義を受けることができたため、理論と実践をバランスよく学ぶことができた。さらに、緊迫したシリア緊急支援現場を訪問したことで、どういった場面で誰を対象にこころのケアの観点が活かされるのかを実体験することができた。

紛争や自然災害における危機管理や防災と、医療保健分野の活動の関係についても考察するよい機会になった。現状、具体的なレベルで散在する課題を認識できたことで、今後の取り組みにつなげていくきっかけになった。

また、受入機関への滞在中にフィリピン台風ハイヤンの被災地への緊急支援チームが発足したため、チーム編成過程、その後1ヵ月ほどのチームの動向、メンタルヘルスの位置づけなども身近に見聞することができた。

2-2. (目標) ソーシャルワークをベースに、メンタルヘルスの具体的ケース介入とプロジェクト運営の理論を深めることで、実践に適宜修正を加えていく。

(成果) 外部研修、フランス国内プロジェクト、タンザニアなど、多様な分野で活躍するソーシャルワーカーと直に触れあい、活動に立ち会い、意見交換することができ、視野を広げることができた。東北のメンタルヘルスプロジェクトについても、長いプロジェクト経験者や多様なプロジェクト経験者からも意見や感想をもらい、今後の活動に向けて再考するよい機会となった。帰国後、介入の質と現地パートナーのキャパシティを高めていくことについてメンバーと議論を始めている。

また、定期的に自らの専門知識を更新していくことが改めて重要であると感じ、今後も積極的に不足する知識・技術を実践と座学の双方にて習得していきたいと考えている。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法

研修テーマ1

<プロジェクト全体>

受入団体で学んだ、多くの部署・関係者が一つのプロジェクトを運営していることによる利点を、少人数で運営する弊団で産み出せるように、ラオスプロジェクト関係スタッフの役割の見直しと整理を行う。目的は、プロジェクトマネジメントにおける各機能が強化されること、そのためのチームに必要なディスカッションと改善対策の促進である。

カウンターパートおよび現場チームとの合同ミーティングも、年間行事として設定する計画を進めている。

<プロジェクト人事(派遣専門家)>

- ・ 採用プロセス・採用条件などのベース作りに取り組む
- ・ 採用後、派遣までについても、受入機関にて行われていた派遣前研修に類似する機能を持たせたプロセスを検討する
- ・ 帰国後のフォローアップ(心身の健康面など)についての見直し

<安全対策>

- ・ 海外中長期活動におけるリスクアセスメント観点の導入

<ドナー対応>

- ・ プロジェクト担当とファンドレイジング部門でのより効果的な連携のためのディスカッション
- ・ 申請書作成・報告書作成フローの洗練

<プロジェクト評価>

- ・ 現場との連携による、活動による効果測定強化
- ・ 現場との連携によるデータ収集能力強化
- ・ 疫学的観点からデータを分析するための人材確保努力
- ・ 組織としての分析評価能力向上につなげる

<財務・会計>

- ・ 現場会計との連携のマニュアル化（手順の整理）
- ・ 現場会計を含み、監査に耐えうる会計処理基準の内部設定

研修テーマ 2

弊団体が国内プロジェクトにおいて注力しているメンタルヘルスについては、以下につき検討したい。

- ・ 経験が団体内に蓄積される仕組み
- ・ 緊急時に果たす事ができる役割（国内・国外）や初動体制の可能性
- ・ 緊急時から中長期プロジェクトにシフトする際の体制についての継続的考察
- ・ 国内プロジェクトスタッフ同士のディスカッション、具体例を通じた学習会などの導入
- ・ 以上を通じた日本ならではのプロジェクトスタイルの追求と、弱点の発見・改善

東北プロジェクトに関しては、チームメンバーや現場のパートナーと、2014年のプロジェクトの方向性をディスカッションする中で、研修中の知識や技術を導入していきたい。これは帰国後既に着手している。

受入機関に比較して小規模である弊団体としては、いち団体がプロジェクトを立ち上げることのみならず、積極的に自らのグローバルネットワークに関与し、世界規模の災害などに緊急対応していくことも効果的な貢献の形であり、強化していくことも検討できると考えられるため、この点についても考察を深めていきたい。

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等

特にありません。

その他

<9月>



MHCE コース
グループワークの様子(イスタンブール)



MHCE コース
緊急支援における危機管理専門家の講義



MDM シリア支援チームとの合流
MDM が支援するリハビリテーションセンターで
社会心理的支援活動に参加する子ども



MDM シリア支援チームとの合流
MDM スタッフが医薬品倉庫で打合せ
(トルコ側シリア国境付近)



MDM ベルギーの一チャリティイベントに参加
(パリ)



同左 完走メダル授与式

<10月>



ベルリン人道支援フォーラム



ベルリン人道支援フォーラム
ロビー展示

<11 月>



タンザニアプロジェクト訪問

地域での注射器(ニードル・シリンジ)回収活動。
MDM スタッフとともに、薬物使用者本人が行う。
周辺は民家

タンザニアプロジェクト訪問

事務所の敷地を開放し、登録者が自由に洗濯等ができる空間になっている。
登録者のなかには、家族と暮らしている人もいれば、路上生活をしている人もいる。



タンザニアプロジェクト訪問

元薬物使用者もしくは、現役の薬物使用者が所得を得るための小規模ビジネスを立ちあげた時の式典。
メンバーが事業計画などを発表。

ヨーロッパ国内プロジェクト担当者会議が開かれた MDM
ベルギー(ブリュッセル)事務所

クリニックも兼ねた事務所



以上